

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300520		
法人名	有限会社 プロスタ		
事業所名	グループホーム 心		
所在地	〒855-0867長崎県島原市緑町9177-5 (電話)0957-63-1118		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年8月26日	評価確定日	平成20年9月8日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 6 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,660 円	その他の経費(月額)	光熱費9,000円 其他実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.46 歳	最低 61 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柴田長庚堂病院・島原保養院・八尾病院・スマイル歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心部から程遠くない場所ながら、背景に眉山をがそびえ立ち、緑豊かな自然に囲まれた静かな住宅地に当ホームはある。ゆったりと落ち着いた雰囲気、建物の横の広い庭には、大きな木のベンチ、テーブルがおかれている。地域との交流、協働はよくなされ、自治会にも加入している。近隣住宅には児童が多く、日常の交流や行事参加においてホームに活気をもたらしてくれている。運営者は、以前の職業経験において高齢者介護施設と関わるうちに、自身も家族の介護において問題に直面し、求めたいサービスへの実現に向けて十分に準備に時間をかけてホーム開設へと到った経緯がある。明るい家庭的な環境のもと、安心と尊厳のある生活のための「心」のこもった支援を目指し、ケアの向上を図るべく、行政・地域との連携や職員のケアの質の向上に日々前向きに取り組んでいる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて、改善計画シートが作成され改善に取り組む計画がなされた。改善項目において個人情報保護の明示といった実践された点もあるが、評価に対する理解への取り組みはまだ十分とはいえず、食事を楽しむ支援においても、再考の上で継続して取り組まれることに期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で取り組む自己評価を目指したが、全職員において評価の意義と活用の周知、理解への取り組みは充分になされておらず、主に管理者による記述となった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回開催され、メンバーは家族会会長、市介護保険課職員、町内会長、地域の学識経験者、運営者、計画作成担当で構成されている。ホームの運営、活動報告と利用者の状況報告、職員の異動報告を行い、メンバーからは適切な助言、意見を頂いている。日常の支援のマンネリ化を防ぎ、新しい風を入れて下さるモニター役としてサービスの向上へとつなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会が結成されており、行事等には積極的に参加、協力をいただいている。家族会会長には運営推進会議へ参加いただき、活動報告並びに貴重な意見の反映に努めている。又、玄関には意見箱が設置され、苦情受付に関する文書も掲示され、意見、苦情に対する傾聴の姿勢を明確にしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入している。ホームの行事に参加頂いたり、子供会や学校育成会の活動に協力したりと相互交流が積極的に行われている。近隣の住宅地は児童も多いことから、『こども110番の家』への申請や街灯設置への働きかけを行い安全を守ることへの協力を惜みず、さらに地域の介護の拠点として介護教室の開催の検討を始めるなど地域還元に向きである。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針にある「家庭的な環境の下で安心と尊厳のある生活」を送っていただく為の支援をもって、地域の協力のもとに住み慣れた場所での暮らしを継続していただくことを、平易な言葉におきかえて理念とし心のこもったサービスを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「笑顔で仲良く手を取り合って楽しくゆっくり暮らします」という文言を念頭に、職員会議の中で常に確認し、支援に務められるよう、玄関・事務室・居間と各所の目につきやすい場所に明示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域と密接に関わる努力をしている。子供会、学校育成会との交流や協力、福祉、職場体験の受け入れもなされている。近隣の住宅地は比較的若い世代の家族が多く、小学生を中心にホームの行事を通じての交流がホームへも活気をもたらしてくれている。子供達の安全をまもるべく『子供110番の家』の申し出、防犯灯設置に努め、介護教室開催も計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画シートを作成し、改善点への取り組みがなされている。外部評価ヒヤリングの際も熱心にメモをとられ、真摯に評価に向き合う姿勢を受け取ることができた。自己評価は、評価項目を提示し職員へは口頭で気づきを伝えてもらうという形で全員での取り組みを試みたが十分ではなく、主に管理者がまとめた。		全職員に対して、自己評価、外部評価の意義、活用方法に対する周知、理解を深める機会をもつことが望まれる。自己評価を全職員の1年間の支援の見直しの場と捉え、第三者による評価からの気づき、WAMNET掲載の意味も踏まえながら全職員での評価に対する取り組みの工夫に期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催されており、議事録からも充実した会議の内容が伺える。参加メンバーは行政代表、家族代表、地域代表がそれぞれ参加、他に介護施設での経験もあられ日頃ホームでボランティアとしても協力いただいている地域の方にメンバーに加わっていただき、ホームのモニター役として様々な貴重な意見をサービスに反映するべく努めている。		

グループホーム 心

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類等の送付の際も、あえて郵送の手段をとらず、直接窓口へ足を運ぶといった運営者の努力により行政との連携がしっかりとされている。日頃のコミュニケーションにより法的な疑問等、適切な指導が受けられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回、ホーム便りを発行し、活動の様子、行事予定を写真を掲載し伝えている。家族の訪問は多く、頻度の高い家族へは、その都度口頭で様子を伝え、金銭出納帳の報告と確認印をいただいている。訪問が出来なかった場合は請求書と共に便り、金銭預かりの報告を郵送し、電話で変化を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(名称 心友会)が結成され、行事には積極的に参加、協力をいただいている。また、家族会会長には、運営推進会議へ参加いただき、活動報告並びに貴重な意見の反映に努めている。また、玄関には意見箱が設置され、苦情受付に関する文書も掲示され、意見、苦情に対する傾聴の姿勢を明確にしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の異動は少ない。適切なケアに務める職員を見極めつつ、離職を防ぐ配慮がなされ、馴染みの職員により利用者が安心できる支援がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人的配置が難しい点もあるため、夜間(19時以降)の研修参加が多かったが、日中の研修も参加できる機会が設けられるよう勤務体制の工夫に努めている。持ち帰った研修資料は職員間で閲覧可能であり、研修記録もまとめられている。均等に全職員が研修を受講できるよう配慮もしており、職員のレベルアップ、資格取得に向けて研修の機会をバックアップしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島の連絡協議会に参加し、研修、交流の機会を得ている。更に、島原市内の10事業所によるネットワークに参加しており、中規模のネットワークでの機動力を活かして今後研修会、相互交流を計画している。その一環として、9月に専門家を招いて口腔ケアの講習会を開催、参加を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>病院を退院後の利用が多く、その場合は必ず入院中に計画作成担当者が訪問している。利用の際は家族と共に見学していただき、試験的に1週間の宿泊体験もしていただくこともある。帰宅願望がある場合は、馴染んで頂けるまで家族の協力を得ながら、時間をかけて見守りの支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者それぞれの生活歴において、人生の先輩として、例えば食事の献立の中で行事食についてであったりと会話の中で職員が学ぶこともある。また、入浴等の支援の折に、利用者から感謝の言葉をいただき、あらたに支援に対する思いや姿勢を正し、利用者に対して感謝の念を抱くこともある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者と一日を共に過ごす中で、会話を絶やすことなく、その中から気づきを見出すことも多い。気づきがあった時は業務日誌に記録し、職員間での情報の共有を図るよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月1回の職員会議、3ヶ月に1回の担当者会議において、日常の気づきを記した業務日誌、職員の意見を考慮し、個人の残された力を引き出すことを念頭に本人、家族の意見を反映したケアプランを作成している。また、ケアプランは同意の署名、捺印を家族より頂いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度を定期的な見直しの期間としており、状態変化にも柔軟な対応を心がけ、変化に乏しい場合も見直しを行っている。</p>		

グループホーム 心

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊対応、通院支援、墓参りなどの外出支援において柔軟な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方の医療機関への通院に家族の協力を得ている一例を除いて、通院、受診支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算をとっているため、重度化、看取りに対する指針、体制、緊急対応マニュアルも作成されるなど整備され、同意書もとられている。現在まで看取りの事例はないが、重度化への対応を近い将来に見据え、本人、家族、かかりつけ医との連携を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する同意もとられ、事業所便りへの写真掲載等なされている。個人記録等の書類の管理もなされている。利用者への言葉かけに関しては、親しく和やかな日常会話の中であっても配慮を忘れることがないようにと支援に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく日中を活動的に、リビング等で過ごしていただくように支援に努めながら、業務優先にならないように利用者の意思を尊重することを職員は心がけている。食事時間も一人一人のペースに合わせて対応している。		

グループホーム 心

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けは利用者の可能な範囲で手伝っていただいている。検食の職員1名が食事を共にし、他の職員は一部の利用者の食事介助、投薬などの見守りをしている。定期的に行われる誕生会では職員も共に食事を摂る機会としている。		介助の状態、職員の休憩時間の確保等を考慮した上で、可能な範囲での共に食事する機会が徐々に増えることに期待したい。会話の弾む食卓において共に食事を摂ることも、介助が現在必要のない利用者にとっては食事を楽しむ支援として、「家庭的」を謳うサービスにおいて大切にしたい。献立の工夫、休憩時間の調整等による前向きな取り組みに今後期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	支援が必要な利用者が多い為、ゆっくりと入っていただくためにも、1日おき交代で入って頂いている。清潔保持のために柔軟な対応も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップかけ、洗濯物たたみ、テーブルで坐ってできる料理の下拵えや食後の茶碗拭き等、利用者個々の可能な範囲で生活の中の役割を担っていただいている。また、生活歴を活かして華道教授をされていた方にお花を活けて頂いたり、塗り絵、ペン字、職員指導の指編み、風船バレー等楽しめるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食、買い物兼ねたドライブ等の外出の機会に車椅子利用が多いため、9人乗りの車椅子用リフト付きの大型車を導入した。車椅子での散歩や外出の際、人的配置が難しい時は、近隣住民のボランティア(運営推進会議メンバー)による応援をいただくこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠はされていない。利用者の自由意志で外に出られる際は、職員の見守りをもって支援している。安全確保の為見守りはもちろん、最寄りの派出所へも利用者の情報提供の上、協力を依頼している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署、町内会立会いのもと夜間想定も含め訓練を行っている。スプリンクラー、熱探知機の設置もなされ、設備点検も怠らず火災に対する十分な対策が取られている。事務室、リビングの目につきやすいところに緊急連絡網、マニュアルが掲示されている。		火災に対する十分な備えに更に万全を期すため、地震、風水害等の天災に対する避難、防災マニュアル作りを、運営推進会議において近隣住民、消防団も含め地域との協働を図りながらの取り組みに期待したい。また、年2回に加えて、職員会議の折など短時間でよいので、職員間での反復としての自主訓練を試みられることにも期待したい。

グループホーム 心

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取には十分に配慮している。一日1200mlを目安に、湯冷まし、お茶、時にジュース等で摂っていただくよう促し、摂取量をバイタル表に記録している。食事はかかりつけ医に個々の利用者の状態に応じて栄養バランス、形態食、治療食のアドバイスを仰いでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、居間のスペース、洗面所、浴室の設備は車椅子での可動域、対応に十分な配慮がされている。リビングの大きな窓からテラスがつながり、屋外での行事を楽しむ広い庭への行き来も自由であり、開放的な明るい雰囲気である。すっきりとした空間ながら、大きめの日めくり、行事の写真などが要所に飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口上には「1丁目1番地」といった標記がされ、個人のスペースとして尊重されている。トイレ付きの居室が2部屋あり、備え付けのベッド、押入れの他は、整理たんす、テレビ、仏壇、家族の写真など馴染みの家具や調度品が持ち込まれ、利用者の移動等の安全確保にも配慮されている。持ち込みの品に関して家族への働きかけを継続しながら、その人らしい部屋作りの支援がなされている。		